

総 論

満 点	70 点	目標得点	55 点	試験時間	60 分	偏差値	政治:75 国際政経/経済:74
大問数	5	小問数	59 (4 問は 2 つ、1 問は 3 つ解答選択するので計 65 解答数)				
【解答形式】		選択式	36/59 問	記述式	23/59 問	論述式	0/59 問
【問題難易度】		C	3/59 問	B	13/59 問	A	43/59 問
※問題難易度：C 難問、B 可否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：約 1 分で 1 問を解かねばならない。基本項目は即答できるスピードが必要。
- 2：重要語句に関する一步踏み込んだ内容を、正誤判定できるかが勝敗を分ける。
- 3：総問数・難問数ともにやや減少。易化の傾向がみられる。

こんな力が求められる！

- 1：記述式の問題は全般的に易問ばかり。全問正解できる基礎力が必要。
- 2：選択式の問題は、お茶ゼミのテキストなら注のページ、用語集なら説明文までしっかり読んでおく必要がある。ただし、マニアックな用語をがむしゃらに詰め込むのではなく、重要な語句の内容を充分理解しておくことが求められる。
- 3：年号を覚えておかないと解答できない問題が出題される。年号の暗記は労をいとわず、日々の学習でおさえていくこと。

参考図書

お茶ゼミテキスト、お茶ゼミ問題集、教科書、用語集、史料集・図説（地図が記載されているもの）

データ&全体傾向

[前年度(2008)合格者最低得点(3科目)] 160 点(得点率 69.56%)

[前年度(2008)受験者平均点(世界史)] 38.83 点

今年度は、昨年度に比べると大問数で 1 題、小問数で 7 問減少した。しかし、多少の変動はあるものの平均して小問 60 問前後が例年出題されている。昨年度は難問数が多かったが、今年度は少なくなった。これは易化傾向といえるだろうが、逆に、来年度再び難化することも考えられる。そこで、通史の学習を終えたら、過去問を解いて難問にも触れておく必要がある。

出題内容はアジア史が 1 題、ヨーロッパ史が 4 題。時代的には古代・中世史が 1 題、近世・近代以降が 4 題という構成。ただし、アジア史に関しては東南アジア・朝鮮といった中国周辺諸国について出題されている。また第二次世界大戦後のソ連・東欧史も出題された。これらの範囲は、現役高校生が苦手とするところである。早期に基本的な範囲・項目を完成させて、2 学期以降は、不得意分野の学習に着手することが必要である。難関私大といわれる早稲田の政経を受験するなら、意欲的に学習を進めていかなければならないのは、言うまでもない。

## 大問別分析

【I】

予想配点 12 / 70 点	時間配分の目安 10 / 60 分
出題分野・テーマ 中国史(明・清～日中戦争、周辺諸国)に関する史料問題	
使用されている資料 史料	

●小問別難易度&解答のポイント等 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す

A 1 (問題難易度B)

史料①が明の洪武帝代について書かれていることは明らかである。したがって明初の「安南」(＝ベトナム)の王朝、つまり陳朝(1225～1400)について誤っているものを選択する。選択肢ハの『大越史記』(用語集頻度①)はややマニアックだが、陳朝代に編纂された史書。選択肢ロは、陳朝滅亡後、黎朝が成立するまで、明の永楽帝が支配した時期についてである。テキスト6月期を参照せよ。

2 (問題難易度B)

選択肢イ(高麗)と選択肢ロ(朝鮮)と悩むところだが、史料①は明の建国時(1368年)のことだから、まだ朝鮮王朝は成立していない。朝鮮王朝の成立は1392年。

3 (問題難易度A)

史料②はアヘン戦争についての記述。したがってアヘンの主産地を選べばよい。

4 (問題難易度A)

選択肢ロは、アロー戦争後の北京条約(1860年)の取り決め事項である。

5 (問題難易度A)

キリスト教の布教の公認を、アロー戦争後の北京条約であると認識していれば、選択肢到北京条約がなくても、1858年の天津条約を選択できる。

6 (問題難易度A)

史料③の文中に「の各域は、乾隆年間にはじめて版図に帰して」とある。したがって、選択肢ハ(新疆)が正解。

7 (問題難易度B)

盧溝橋が北京郊外であることをわかっているかどうか。また、北京＝北平であることも想起できないとならない。

8 (問題難易度C)

史料④は日中戦争(1937～1945年)についての記述である。選択肢ハ(冀東防共自治政府)の成立年代(1935年)を覚えていないと解答できない難問。

B 1 (問題難易度A)

洪武帝の本名は朱元璋である。

2 (問題難易度A)

イギリスの自由党を代表する政治家といえば、グラッドストーンである。

3 (問題難易度A)

下関条約の清朝側全権大使は李鴻章。ちなみに日本側は伊藤博文である。

4 (問題難易度A)

カイロ会談の中国(中華民国)代表は蔣介石である。

※3はややマニアックであるが、基本的にすべて解答できないとならない問題ばかりだ。

## 【Ⅱ】

予想配点 10 / 70 点	時間配分の目安 10 / 60 分
出題分野・テーマ 古代～中世ヨーロッパに関する雑題	

●小問別難易度&解答のポイント等 ※問題難易度：C難問、B 可否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す

- A
- 1 (問題難易度A)  
選択肢ロ、テルモピュレーの戦いでスパルタ軍は、ペルシア軍に敗れ全滅した。
  - 2 (問題難易度A)  
選択肢ニ、フェイディアスはギリシア盛期文化（古典時代）を代表する彫刻家で、ヘレニズム時代の人物ではない。
  - 3 (問題難易度A)  
消去法で容易に解答できる。
  - 4 (問題難易度A)  
選択肢ニ、テオドシウス帝はエフェソス公会議を開催していない。またアリウス派を異端としたのはニケーア公会議である。
  - 5 (問題難易度A)  
選択肢イ、フランク族はガリアに定住した。イベリア半島に定住したのは西ゴート。ただし、選択肢ロについては、「アリウス派からアタナシウス派に改宗した」という説と「キリスト教以外の異教からアタナシウス派に改宗した」という説もあり、誤文であるとも言える。つまり、正解はイもしくはロとなるが、諸君はイを選択できればよい。
  - 6 (問題難易度A)  
選択肢イ、ユスティニアヌス帝は、ヴァンダル王国と東ゴート王国を滅ぼした。西ゴートではない。
  - 7 (問題難易度A)  
選択肢ロ、大憲章（マグナ=カルタ）の制定は国王ジョンのときである。
- B
- 1 (問題難易度B)  
テルモピュレーの戦い、サラミスの海戦が行われたのは第3回ペルシア戦争である。ペルシア戦争だから、ダレイオス1世と即答すると間違ふ。クセルクセス1世が正解。
  - 2 (問題難易度B)  
ローマの文章家であり、共和派の政治家でもあったキケロが正解。カエサルと政治的に対立したのは有名。カエサル暗殺後はアントニウスと対立して暗殺された。
  - 3 (問題難易度B)  
設問文中に「フランス国王によって解散させられた」とあることから判断する。つまり、フィリップ4世が解散したテンプル騎士団が正解。ややマニアックだが、9月以降の各国史のテキストで学習する。

## 【Ⅲ】

予想配点 23 / 70 点	時間配分の目安 15 / 60 分
出題分野・テーマ 宗教改革と大航海時代の影響に関する問題	

# Benesse® お茶の水ゼミナール

●小問別難易度&解答のポイント等 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す

## A 1 (問題難易度A)

文章①から、図cはカール5世である。したがって、正解はハとホ。これらはフェリペ2世に関連する事項。

## 2 (問題難易度A)

文章①から、図dはトリエント公会議である。したがって、正解はイとロ。

## 3 (問題難易度A)

図dはトリエント公会議なのだから、正解はハとニ。選択肢ハ(信仰義認説)はルター派・カルヴァン派の思想。また選択肢ニ(一般祈祷書)はイギリス国教会のものである。

## 4 (問題難易度A)

選択肢ロ、ザビエルはスペイン人。また中国への途上に病死した。

選択肢ホ、ザクセン選帝侯フリードリヒはルターを保護した。

## 5 (問題難易度B)

(c : ウィクリフの活動は14世紀後半 → e : コンスタンツ公会議は1414~1418年) → (b : 贖宥状の販売は16C前半 → d : アウクスブルク帝国議会は1555年) はわからないとダメだ。したがって、選択肢ロかハのどちらか。問題は活版印刷実用化の時期だが、ルネサンスの発明なのだから、(c → e) → a → (b → d) となり、正解はハ。冷静に考えれば解答できる。

## 6 (問題難易度A)

貨幣量と商品価格に関する基本的な問題。

## 7 (問題難易度C)

b(トルデシヤス条約)が1494年で、一番早いことは気づかないとまらない。コロンブスの西インド諸島到達(1492年)を契機に植民地分界線(1493年)が制定され、それを翌年修正したのがトルデシヤス条約である。そこで、選択肢ロ・ニ・ホまで絞れる。あとは、それぞれの年代を覚えていないと解答を導けない。a(カブラルのブラジル漂着)は1500年。c(ポトシ銀山の発見)は1545年。d(バルボアのパナマ地峡横断)は1513年。e(コルテスによるアステカ王国の滅亡)は1521年である。

## B 1 (問題難易度A)

カール5世がルターに自説の撤回を求めるために開催した帝国議会だから、ヴォルムス帝国議会である。

## 2 (問題難易度A)

スコットランドのカルヴァン派はプレスビテリアン(長老派)である。

## 3 (問題難易度B)

「オランダのカルヴァン派を何という」という設問なら、容易に「ゴイセン」と解答できる。しかし、その名称の由来までおさえられているかどうかがかぎとなる。

## 4 (問題難易度A)

設問文中に「労働地代などではなく」とあるから、「生産物地代」もしくは「貨幣地代」だと判断できる。さらに、設問文中に「物価が上昇したため、不利な状況に陥った地主」とあるから、貨幣価値が低下して地主が不利になったことがわかる。したがって正解は貨幣地代。

## 5 (問題難易度A)

着目すべきは、「統治を委託する制度」(エンコミエンダ制)に代わって、「債務奴隷を主要な労働力とする土地制度」という部分。正解はアシエンダ制。

## 【IV】

予想配点 14 / 70 点	時間配分の目安 15 / 60 分
出題分野・テーマ 19 世紀のヨーロッパ（ナポレオンとビスマルク）に関する問題	

●小問別難易度&解答のポイント等 ※問題難易度：C 難問、B 可否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す

A 1 (問題難易度 B)

選択肢イ・ロ・ニが正しいことはわかる。悩むのは選択肢ホ（スーダンの征服）だろう。しかし、選択肢ハが明らかに間違い（誤：キプロス→正：シリア）である。知らない情報に振り回されないことが大事である。

2 (問題難易度 A)

選択肢ロは、自由市になったのはダンツィヒである。このことを知らなくても消去法で解答できなくてはならない問題だ。

3 (問題難易度 B)

選択肢ロのシャルンホルストの軍政改革についてはマニャック。正解はハで、農奴制は廃止されたが、部分的なもので、自作農が大量に創出されたわけではない。

4 (問題難易度 A)

年代に関する問題だと思ったら、ひっかかる。文章の正誤を判定する問題である。つまり、選択肢ホのカヴールが間違い、正しいのはマッツィーニである。

5 (問題難易度 A)

消去法で解ける。選択肢ハについて、普墺（プロイセン=オーストリア）戦争でドイツ連邦は解体した。

6 (問題難易度 A)

選択肢ハ、パリ=コミューンの反乱（1871 年）の時点では、すでにナポレオン 3 世は退位しており第二帝政は崩壊している（1870 年）。パリ=コミューンの反乱は、第二帝政崩壊後の臨時政府に対して行われた。

7 (問題難易度 A)

選択肢ホ、モンテネグロは独立した。ロシアの保護下におかれたのはブルガリアである。ちなみに、選択肢ロは露土（ロシア=トルコ）戦争の講和条約締結地サン=ステファノのこと。

8 (問題難易度 A)

選択肢ロ、イギリスは英仏協商でフランスのモロッコ支配を承認している。モロッコ事件（第 1 次=タンジール事件、第 2 次=アガディール事件）を想起できれば、イギリスではなくドイツであることがわかる。

B 1 (問題難易度 A)

エジプト遠征の目的は、イギリスとインドの連絡路を断つことである。

2 (問題難易度 A)

第 1 回～第 3 回の対仏大同盟を提唱したのはイギリス首相ピット（小ピット）である。

3 (問題難易度 A)

フィヒテは観念論哲学者でもあり、フンボルトの教育改革で創設されたベルリン大学の初代総長でもある。

4 (問題難易度 A)

リストは歴史学派経済学の祖で、ドイツ関税同盟の成立にも尽力した。

5 (問題難易度 A)

# Benesse® お茶の水ゼミナール

ビスマルクは、ロシアがフランスへ接近するのを防ぐ目的で、1887年に独露再保障条約を締結した。

6 (問題難易度B)

ビスマルクだから「鉄血政策」と即答してしまうと間違ふ。「ウィーン体制」(復古反動主義・勢力均衡)と「ビスマルク体制」(フランス孤立化政策・勢力均衡)に共通する政策なのだから、正解は勢力均衡。こういった、固有名詞ではない事項を苦手とする受験生は多い。内容理解を怠らないように。

## 【V】

予想配点 11 / 70 点	時間配分の目安 10 / 60 分
出題分野・テーマ ソ連・東欧史 (第一次世界大戦～ソ連の崩壊)に関する問題	

●小問別難易度&解答のポイント等 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す

A 1 (問題難易度C)

マニャックである。用語集には記述はない。ただし、9月以降の各国史のテキストの注には書かれている。

2 (問題難易度A)

アメリカ合衆国は、上院の反対でヴェルサイユ条約を批准せず、また国際連盟にも加盟しなかった。

3 (問題難易度A)

フランスが委任統治したのはシリア。南西アフリカ(旧：独領)は南アフリカ連邦が、旧オスマン帝国領であったイラクとパレスチナはイギリスの委任統治領となる。

4 (問題難易度A)

選択肢イ、ルール占領はフランスとベルギーによって行われた。イギリスではない。

5 (問題難易度B)

東欧諸国が、人民共和国(人民民主主義の共和国)になったことを覚えていれば解答できる。あるいは、消去法で解ける。選択肢イ(人民戦線)は、反ファシズム勢力の協力体制である。選択肢ロ(新民主主義)は、毛沢東の革命理論である。選択肢ニ(統一戦線)は、共通の目的のために諸勢力が協力体制をつくることである。

6 (問題難易度A)

選択肢ロ(ハンガリー動乱)の結果、指導者ナジ=イムレは処刑された。選択肢イ(ポズナニ暴動)はゴムウカが自主解決した。選択肢ハ(「ブラハの春」の鎮圧)では、指導者ドブチェックが失脚したが、処刑はされていない。選択肢ニ(コミンフォルムからのユーゴスラヴィア除名)については、以後も、ユーゴスラヴィア大統領ティトーが独自の社会主義社会と非同盟外交を展開した。

B a (問題難易度A)

解答できなければならない基本中の基本問題。

b (問題難易度A)

これも基本問題である。

c (問題難易度B)

「ドイツの賠償支払いのプラン」だから、ドーズか、ヤングのどちらか。1929年という年号を覚えておかないと迷ってしまう。ドーズ案は1924年。したがって正解はヤング。

d (問題難易度A)

基本問題である。

e (問題難易度A)

これも基本問題である。ソ連を解体に追い込んだロシア共和国大統領なのだからエリツィンが正解。

# Benesse® お茶の水ゼミナール

ゴルバチョフ（ソ連共産党書記長・ソ連大統領）ではない。